

総務厚生委員会

行政視察の報告

7月8日(水)、9日(木)に「発達障がい児者の支援」について視察を実施しました。

- 発達障害者支援センター「のぞみ」(岐阜市)
- 岐阜県立希望が丘学園(岐阜市)
- 岐阜県健康福祉部障害福祉課(岐阜県庁)
- 平谷こども発達クリニック(福井県福井市)

発達障害者支援センター「のぞみ」 岐阜市

◎概要

発達障がいに関する総合的な相談や支援を行う機関として既存機能を集約し、今年4月に開設。これにより成人期も含め、切れ目のない継続的な支援が可能となった。主な業務内容は、

- ① 電話や来所での本人及び家族の相談支援
- ② 家族会や学習会などグループ活動への支援
- ③ 研修会の開催など啓発及び人材育成

岐阜県立希望が丘学園 岐阜市

◎概要

当学園は、児童福祉法や医療法に基づく障がい児の福祉・医療の専門機関として昭和32年に開設され、今年9月には「希望が丘こども医療福祉センター」として隣接地に新築移

転。

スタッフの充実など機能強化を図り、総合的な療育などを行うとともに県の中核施設としての役割を担う。

また、県ではこのエリアを福祉ゾーンとして拠点整備をすすめている。

希望が丘学園の主な業務内容は、

- ① 小児科や児童精神科などの外来診療
- ② 医療を必要とする障がい児の通所、入所施設
- ③ 保育園のスタッフ支援などを行う児童発達支援センター

また、9月の開設に合わせ、「地域連携室」を設置し、県の拠点施設として各圏域との連携強化を図っている。

◎考察

県が飛騨圏域に設置している子ども相談センター、就業・生活支援センター(高山市)、発達障がい支援センター(下呂市)がそれぞれどのような役割を果

たしているのか、またどのような役割が求められているか調査の必要性を感じた。また、広い飛騨圏域を考えた場合、市内にも発達支援センターを設置すべきと考える。

本市の療育のレベルは高いとの評価をいただいたので、今後も県のスタッフ支援事業などを活用し、更なるスキルアップと地域療育システムの構築に活かしてほしい。

岐阜県障がい者総合支援プラン 岐阜県庁

◎概要

本人や家族にとつて、切れ目のない支援を主眼にプランを強化、再構築した。

特に社会参加を進める支援策として、就労先の開拓など一般就労支援の充実や軽度の知的障がいのある生徒の就労ニーズに応えた高等特別支援学校の整備がすすめられている。

◎考察

障がい者の社会参加は重要課題と捉えていて、高山市における分校設置も含め就労機会の拡大について調査をすすめたい。



「のぞみ」での視察の様子

平谷こども発達クリニック 福井市

◎概要

平成13年に開院以来、発達に関して専門的に診察や療育、また、生活介護・放課後等デイサービスを実施。スタッフは、言語聴覚士や作業療法士などを含め約70名で子どもや家族にきめ細やかに対応されている。

院長は、親の希望はこどもの将来に見通し

を持つことであり、それは子どもの経済的な自立に就労である。

そのためには、当院のような福祉現場はもちろんだが、子どもが多くの時間を過ごす教育現場の果たす役割が大きい。その子の特徴を把握して進路指導にあたってほしい。福祉と教育の連携が不可欠であると述べられた。

◎考察

本市でも療育環境の整備はすすめられているが、特別支援教育やその後の就労も含め、将来の見通しがもてるような環境を整えていく必要があるため、今後も調査をすすめたい。



クリニック内の施設の説明を受ける